

りもなくまつ暗でした。道の左がわを流れる戸石川の音が、さらさらと聞こえるだけで、うすきみ悪く、反対がわの林の中には、ときどき、きつねの姿もみられました。

雨や雪の日などは、何度も夜学をやめようかと思いましたが、勉強の好きな伊策は、とうとうやめずにがんばりつづけました。

夜学に通って勉強をしていたある日、こんなことがありました。

朝ごはんを食べているとき、父が、弥五島へ行く近道を作ったお坊さんの話をしてくれました。

「昔、弥五島に行くには、大川ぞいの岩場を通らずに遠まわりしていた。それを越後から来た比戸というお坊さんが、みんなに頼まれて、岩を掘り、ようやく岩場の道を作ってくれたのだ。道の途中にガマ岩とよばれるイボガエルみたいな大きな岩があるが、あんな所によく道がつくれたものだ。それか